

CAR Newsletter

2025年10月号



インスタグラム



フェイスブック

お祭りの季節がやって来ました！2025年佐原の大祭秋祭りに参加された方々、3日間大変お疲れ様でした！私は初めて佐原の大祭を観ることが出来て、とても楽しませていただきました！

お祭りの最終日の夜、自分の行きつけのカフェ・バーで友人とお話していた時に、アメリカでもこういう催事はあるか聞かれましたが、即答で「ない。ありえない。」と断言しました。もう少し考えをまとめてみたら何かあったかもしれないのに、すぐに言い切れるくらいの自信はどこから湧いてきました。その理由を今月号のニューズレターで掘り下げていきたいと思っています。





まずバーから帰ってきた時、アメリカには佐原の大祭くらいの大規模の催しがあるかと考え直してみたら、それは当然ありました。

例えばアメリカの大晦日には、世界中からニューヨーク市のタイムズスクエアに人が集まり新年を迎えます。アメリカの各ニュース局がその様子の中継しながら、アメリカの色々な都市でさらに音楽のライブ、パーティーなどが開かれて、それぞれ報道されます。自分でわざわざ足を運んでニューヨークの新年会に参加しようと思わないのですが、規模で考えればアメリカの大晦日の方が圧倒的に大きいです。それではなぜ佐原の大祭にはこんなに惹かれたのでしょうか。

規模の大きさはさておき、先月考えていたコミュニティの話に一旦戻ります。私の地元では、佐原の大祭のようなイベントの開催はありえないと感じたのはおそらく様々な理由があるでしょうけれど、その中にコミュニティの在り方が大きいのだと思います。私の地元では人々は土地・場所を共有しますが、お互いのつながりが浅く、同じウィルトンという町に住んでいてもバラバラに暮らしています。そのため、毎年何か行事があっても、町の人はその間に集まるとは限りません。町から出ていった自分と同じ世代の人たちでも、町の催事のために戻ってくるとは限りません。



佐原の大祭は様々なところから様々な人を呼びますが、集客も含めて成立するのは地元民の熱量が高いからです。雨の中でも町全体の雰囲気は乱れません。その独特な雰囲気は山車を引っ張ったり、お店を経営したり、町を案内をしたりしている地元の人たちが作っているものです。遠くから観にくるわけだなあとつくづく思いました。

境遇を共にして町のために何かを成し遂げるのはどのくらい素敵な景色なのか、佐原の大祭秋祭りをもって初めて実感できたかもしれません。